

日本文学と文化
戦後編
第0回
イントロダクション

世代間コミュニケーション の喫緊の課題

就職採用担当

採用する側＝権力側＝既得権
権力はマジョリティにある
コンテキストは権力が作る

学生

採用される側
マジョリティ→マイノリティへの自覚

就職採用者たちのもつコンテキスト

社会的常識とは、50代のもつ常識

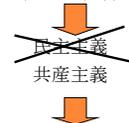
- 1965(昭和40)年以前に生まれた世代
3歳 1968(昭和43)年の経験がまぼない
8歳 1973(昭和48)年まで高度経済成長
10歳 1975(昭和50)年以降少子化へ

競争社会を肯定

「勤勉」「個」より「集団」を重んじる(=和の文化)
日本経済を支えて来た自負(創始より伝統)
肯定的変化を好む(進化論的幻想)
エコが好き(公害問題の経験)

さて、時代は大正中期

ソビエト(現在のロシア)の王制が倒される
(ロシア革命)



世界で初めて共産主義の国が現実に誕生

共産主義と資本主義

資本主義＝自由主義

資本家(ブルジョア)＝金を持っている
資本金＝商売や工場をはじめる資金
労働者(プロレタリア)＝金がない
店や工場で雇われる

資本家同士が自由に競争する(自由主義)

上記の社会構造を批判的に分析する理論
マルクス、エンゲルス『共産党宣言』
マルクス＝レーニン主義

資本主義のしくみ

ある会社A

もうけ＝1000万円

社長＝200万

役員＝50万×3人＝150万

労働者＝10万×5人＝50万

のこりの600万円は、会社を拡大してゆくの
に使用 ＝ 再投資

共産主義のしくみ

会社は、すべて国が管理・運営



もうけ= 1000万円

400万を9人で
平等にわけあう
一人約34万円

のこりの600万円は、会社を拡大してゆくの
に使用 = 再投資

next

資本主義と共産主義

資本主義=自由主義 の 欠点

- ①、弱肉強食の原理で、**貧富の差**がうまれる。
- ②、労働者(プロレタリア)の労働が**むくわれない**。
- ③、労働者(プロレタリア)の立場がよわく**悲惨な扱い**をうける。
- ④、競争に負けたら、**首**になったり、会社が**つぶ**れたりする。

共産主義=社会主義 の よいところ

- ①、すべての労働者(プロレタリア)が、**公平**で報われる。
- ②、国が管理しているから**つぶ**れたりしない。
- ③、**競争**がない。

理想の国の実現?

next

プロレタリア運動の広まり

プロレタリア運動

プロレタリア(労働者)階級の人々を解放して
革命を起こして、共産主義国家を樹立する

プロレタリアの人々を目覚めさせる
=文学の役割 プロレタリア文学

日本でも絶大な力をもつ。

左翼(革命) 保守 右翼(全体主義、王政主義)
現状肯定(資本主義)

next

弾圧され続ける社会主義運動

木下直江 幸徳秋水 大杉栄 伊藤野枝

大逆事件

関東大震災
朝鮮人および社会主義者の暗殺
甘粕事件

プロレタリア

VS

文学運動

翼賛体制下(小林多喜二の虐殺)
1911年 特別高等警察(民間スパイ)
1931年 治安維持法

多喜二ショック!
小林多喜二の惨殺

「小林多喜二はどして死んだか
知っているか。小林のようしてやる。
天皇に送らった者はこしてやる」

世間に政府の弾圧のうごまきを知りしめる

多くの人々が**転向**宣言をする!

社会主義思想を捨て翼賛体制に協力すること
を、公の場所(新聞等)で宣言すること



そして戦後

日本はアメリカの傘下に
アメリカ軍の象徴 GHQ マッカーサー

日本=アメリカ
資本主義=自由主義
民主主義

VS

中国=ソビエト(ロシア)
共産主義
マルクス=レーニン主義



正の側面・負の側面

食料品の供給 パン・チョコレート
 基地の常駐 日本を守る
 朝鮮戦争 1950-53
 朝鮮の分裂 (韓国+北朝鮮)
 日本の経済復興 (朝鮮の犠牲)
 日本の返還 サンフランシスコ条約 1951
 沖縄の犠牲
 保守政権 (自民党単独政権) = 政権の安定

世界は分割されてゆく

多くの独立国
民主主義 (アメリカ) VS **共産主義 (ロシア=ソビエト)**

ドイツ **西ドイツ** VS **東ドイツ**
 (マルクス主義理論)

台湾 VS **中国**
韓国 VS **北朝鮮**

日本はどうか？

戦前のマルクス主義思想の二大流派

1927~37 日本資本主義論争

労農派 『労農』(27~? ?)

直接的な社会主義革命

VS

講座派 『日本共産主義発達史講座』(32~33)

二段階革命論

いずれも軍部に弾圧

戦後のマルクス主義思想

アメリカ軍により、民主主義派も共産主義派も解放

「マッカーサー万歳！」と叫ぶ共産党幹部 というエピソード

労農派 → 社会党 社会主義協会 (山川均・大内兵衛 (東大)・向坂逸郎 (九大))

講座派 → 共産党 山田盛太郎、平野義太郎 (法学者)、羽仁五郎 (歴史学者)

二段階革命論の最初のターゲットを天皇制からアメリカへシフト

※宇野弘蔵は独自の立場「三段階論」(原理論・段階論・現状分析)

※主体性論争、疎外論、戸坂潤の活動

アメリカ軍による、レッドパージ(反共路線)

1951 第五回全国協議会

「山村工作隊」「中核自衛隊」などの非公然軍事組織による軍事路線

1952 サンフランシスコ条約

破壊活動防止法 の 対象

総選挙 → 全員惨敗

1955 55年体制の完成

第六回全国協議会

破壊活動を一部の暴走であると総括→議会主義路線

こいつらはヘタレなのか？

市民派 市民運動などを活性化しながら市民社会の内部で革命を目指す人々の総称

丸山眞男、鶴見俊輔、大塚久雄 (ウェーバー経済史)、川島武宜 (日本の法意識の研究)

構改派 構造改革を繰り返して漸進的に社会主義を実現してゆく穏健路線

イタリア共産党書記長トリアッティ→江田三郎

イタリアのグラムシ (ヘゲモニー論)→石堂清倫

保守なの革新なの？

- ①、政治的安定 → 保守は現状維持であるから保守であることを意識する必要はない
- 革新 の次に 保守が生まれる
- ②、学問世界は、国家に保護された反社会的の世界なので、革新思想が育ちやすい
- ③、実際の革命が不可能でも、実戦に向かう OR 理論的な議論を繰り返す

様々なマルクス用語と三人のスター

唯物論
歴史決定論・歴史発展理論
保守 VS 革新
ポリシー
下部構造・上部構造

- ①、丸山眞男 「日本の思想」 真の近代化・理論の物神化
②、吉本隆明 共同幻想論、大衆を支える構造への理解
③、廣松渉 ルカーチ『歴史と階級意識』の疎外論や物象化・物神化の再評価、共同主観性

学生運動世代の最大のスターはサルトル

ジャン=ポール・シャルル・エマール・サルトル
(Jean-Paul Charles Aymard Sartre)

1905年6月21日 - 1980年4月15日

フランスの哲学者、小説家、劇作家、評論家。

内縁の妻はシモーヌ・ド・ボーヴォワール。強度の斜視があり、後に右目を失明。『存在と無』に続く哲学的著書『弁証法的理性批判』は、実存主義(あるいは現象学的存在論)をマルクス主義の内部に包摂することによって、史的唯物論の再構成を目指したものであった。



サルトルは時代の寵児

神が居るならば、本質は存在に先立つ
居ないならば

実存は本質に先立つ

人間の「実存」=対自 モノの本質=即自

「人間は自由という刑に処せられている」

だから

自分を投棄して、アンガージュマンしなければならない

学生運動

1960年代から

日本の高度経済成長

東京オリンピック(1960)

大阪万博博覧会(1970)

負の側面

公害問題

アメリカの基地や政治(ベトナム)

貧富の差

学生運動

主体 戦後生まれの学生

1945 1965(20歳) 2005(60歳)

1960年代 安保闘争

1968 大学紛争世界規模での拡大

1970年代 新安保闘争・成田闘争

※ポリシー=政治的主義主張

ノンポリ→当時はマイノリティ・

※ 村上春樹

政治離れの時代

- 1969 安田講堂事件
- 1970 よど号ハイジャック事件
- 1972 連合赤軍事件

学生の文化

カウンターカルチャー
 フォークソング・ロックミュージック・ジャズ
 漫画(劇画)

学生の象徴 Gメン・長髪

スーツ・髪を切る(7・3) 社会人へ

政治と若者

自分たちの力で未来(社会)を帰られる自信

金はない(でも社会は豊かになりつつ…)

このまま社会を変えれば、素晴らしい未来

ノスタルジー

凡地に白髪をもう一度

いつか恋といった 映画が多くなる
 映画を知らないで 二人で出かけた
 涙も映画では 涙くんだ
 映画は映画が 今を思い出
 雨に濡れたけど 恋胸のオースターに
 恋を言った 君が
 恋をやらに よみがえる
 恋をみるだろうか 凡地に白髪 せ
 二人だけのメモリー どこまでもう一度
 二人だけのメモリー どこまでもう一度

作詞 坂井由実
 作曲 坂井由実
 編曲 向井理一

覚えていたかあの夜
 映画の毎日
 お前と僕で "サマー・タイム・ブルース"
 空を飛ぶには羽もない
 電車の窓は遠くから名よりだった

そこに名前がいたそれだけで
 輝かしく思ってたあの頃
 空のブルーで君のまぶさに
 未来は電車のためにあると信じてた

When I see you 1969
 君に会えていただけさ

ロック・アウトされたキャンパスは
 やりきれないほどに原色の毎日だった
 知らないで恋を始めた
 何も知らずに電車を
 見送っていた

時の流れに慣れる前に
 ふと懐かしくよみがえる
 愛と科学は話のすぎた
 お前との暮らしとその確実みすべてを

When I see you 1969
 君に会えていただけさ

Oh Yeah

Rocksim

作詞 高見沢俊彦
 作曲 高見沢俊彦
 編曲 THE ALFEE